

## 5月読書会報告

原 民子 (1970年文学部卒)

読書会日時：2024年5月24日（金）午後6時から8時まで

場所：荻窪ジュノン

参加者：15名

当日担当：原 民子

1. テキスト：平野啓一郎著『ある男』新潮文庫
2. 上記の本を取り上げた理由

昨年大江健三郎が死去した。彼は東大在学中に芥川賞を受賞した。今回取り上げた平野啓一郎も京大在学中に芥川賞を『日蝕』で受賞。その後順調に作家の道を歩いているようだ。いちど読んでみようと思って、今回『ある男』を取り上げた。予想していたよりも文学的で、いい小説だった。テーマも現代社会を反映しているが、小説スタイルとしては奇をてらうことなく、普通の小説として読むことができた。

3. 『ある男』あらすじ

1. 語り手の私がバーである男に出会った。彼は話すうちに最初の名前は偽名で本名は城戸章良（あきら）で、弁護士だと告白。なぜ偽名を名乗ったかという理由からストーリーが展開していく。

城戸はかつて調停を手がけた宮崎県に住む谷口里枝から再婚した夫の身元調査を相談された。その夫谷口大祐は事故死した。大祐の兄谷口恭一が弔問に来て、遺影の写真は弟でないと言い出した。その「大祐」は5年前に里枝の営む文房具店に現れ、知り合い、結婚。里枝には初めの結婚でできた男の子がいた。やがて大祐との間に女の子が生まれた。「夫」が別人だとわかった里枝は城戸に相談する。

谷口大祐とはなにものだったのか、なぜ他人になりすましたのか、どのように戸籍などこの社会に生きていくのに必要な書類が整えられたのかを城戸が探っていく。

在日三世である城戸は、東日本大震災時に感じた朝鮮人差別、ひいては関東大震災の朝鮮人虐殺などへ複雑な思いを抱える。「谷口大祐」探しの過程で、「大祐」のもと交際相手に会い、心惹かれる。また、息子の育て方をめぐる妻との葛藤、妻への不信、心の揺れを感じながら、「大祐」探しを続ける。ついに「大祐」は1985年三重県でおきた強盗殺人で逮捕された男の子ともだと判明。その子は父親が逮捕された後、母の姓を名乗り「原誠」として生きた。父親はすでに死刑執行されていた。

ある日、城戸は死刑囚たちの展覧会で見た絵をきっかけに、戸籍を売買するブローカーの存在を知る。

もとの「谷口大祐」は「曾根崎義彦」となり、死刑囚の息子だった「原誠」は「谷口大祐」となった。

谷口大祐とはなにものか。原誠が谷口になるまでの過程。谷口大祐が別人になりたがった理由。大祐の元恋人をめぐる兄弟の葛藤。死刑をめぐる論争など様々なテーマが繰り返されていく。

戸籍転売というビジネスを利用すれば、人が全くの別人としてこの世界で生きていくことができることがかなり克明に記されている。

\*登場人物の名前が入れ替わっていく。読むにはでてくる登場人物の元の名前、戸籍を買って変わった名前、誰と誰が入れ替わっていったのかなど混乱してくる。そのあたりの整理がつかなくなるので、ネットの『ある男』登場人物の相関図を参考にした。

\*登場人物はほとんど男性

\*\*登場人物で主な女性は3人

#### 1) 地方で文房具店を営む「谷口大祐」の妻 里枝

若いころに結婚し、生まれた子どもの病気のケアをめぐる、夫と対立、離婚した。その後、郷里に帰り、親の店を継いだ。

でてくる女性の中で、私が一番気にいっている女性。地方でしっかり根をはり生き始めた女性。

#### 2) 弁護士城戸の妻・・・キャリアウーマン、上司と不倫か

いまの若手作家が考えそうな設定の女性だなと感じた。

#### 3) 元の谷口大祐の女友達、城戸も心惹かれる。

とても現代的に書かれているが、あまり魅力を感じなかった。

#### 3. 主題はなにか

- ・物語の語り手城戸は、なぜ仕事をこえても「谷口大祐」の変転を辿るのか
- ・中年のクライシス・・・仕事も家庭も安定した状況でふと感じる自分とはなにか
- ・在日3世の問題
- ・犯罪被害者の残された家族の状況
- ・戸籍転売というビジネスの存在

様々な事柄が絡まり、転がり、なぞは深まる。

#### 4. 私の感想

文学的であり、ミステリーであり、社会問題を提示している小説であると思う。

犯罪被害者の家族が生きる現実の厳しさ、臓器提供をめぐる家族の重たさ、在日など重いテーマばかりだ。

しかし、最後の里枝と息子の会話から、彼女家族が「大祐」からプレゼントされた幸せな家族の4年間で、これからの人生の支えとなることが暗示されていると思う。

#### 5. 読書会での話合い

- ・面白かったという感想が多数であった。
- ・人は愛する相手の過去を含めても愛することができるのか。

小説では里枝は結婚まえの夫の過去について知ろうとすることなく、心惹かれ、一緒に住み始め、おだやかに生活をしていく。

- ・谷口兄弟に恋心を抱かせる女性が魅力的に書かれている。
  - ・小説が序で始まっているのに、序を受ける部分がないのが気になる。
- など活発な意見交換の場となった。

#### 6. その他

・AI がさらに進化すると、この肉体がなくなり記憶というデータの塊になりそうだという近未来の話がでた。

・ロバート・キャンベルが講演で読むべき本のリストに『ある男』を入れていたなどの話もでて、毎回と同じく、読後の感想や情報提供など活発な話合いがあり、楽しい会であった。

以上